学校だより

翔　　空

№２９　平成２４年１１月　２日（金）
郡山市立喜久田中学校長　大堀　昌弘

「翔空（しょうくう）」の由来　〈校舎のシンボル〉

壁画「空へ」を受け、風光明媚（ふうこうめいび）なこの学舎（まなびや）から、希望に燃え限りない空へ、力強く翔んでほしいという願いを込めて、翔空の碑ができた。

［放射線量計について］

現在配付され４９名の生徒の皆さんが身に付けているバッジですが、第３回目の計測であり、期間が８月２７日～１１月４日までとなっています。もうすぐ回収となりますのでご準備ください。（１１月５日朝）

なお、第４回目の実施は、１１月５日朝～来年１月７日までの期間となります。５日の朝に新しいものを配付いたします。また、今回の結果については、１１月下旬頃に配付される見込みです。

【いろはがるた第４弾】

今回のいろはがるたは、「老いては子に従え」です。

親も年をとったら、わが子の意見に従った方がよいということ。つまり、時代の流れに従順に従うことです。

解説本には、これは「老人一般の心得」と書いてあり、とても意味深長です。

参考のため、京都・大阪など上方では、「鬼も十八」となっており、「どんなに醜い女でも、十八の盛りとなれば、それなりに美しく見えるように、どんなものにも盛りがある」という解説はうなずくばかりです。江戸と上方いろはがるたのカードの大きな違いがまた発見できました。

【美しい日本語表現コンテスト】

過日、郡山市民文化センターにて、今年度の「美しい日本語表現コンテスト」が開催されました。

本校からは、３年生の三瓶かすみさんと斎藤郁也くんの２人が参加しました。斎藤くんは途中からピンチヒッターで入りながらも本当に堂々と発表し、２人の息のあった小説「高瀬舟」の名場面は、実に生き生きと表現されていました。本当に感動をありがとう。

「翔空祭を通して思うこと（続編）」

～文化祭の「生徒による反省」集計より見えること～

前回は、「文化祭を通して私の思うこと・感じたこと」を述べましたが、今回は、生徒自身がどう感じたのかなどを紹介いたします。

まずは、次のアンケート結果をご覧ください。回答された数（分母の数）が違いますので、一応％で示してみたいと思います。

１）今年の文化祭は、充実していましたか。
　・・・９６％が満足（昨年度は、９０％）

２）合唱コンクールにしっかり取り組めましたか。
　・・・９０％がしっかり取り組んだ（同８７％）

３）学年発表の劇にしっかり取り組めましたか。
　・・・９６％がしっかり取り組んだ（同８８％）

すべての項目で達成率が上昇しました。

※（要望事項）
- ○　有志発表を来年度も続けてほしい。
- ○　来年度は、もっとおもしろい学年発表（劇）にしたい。
- ○　文化祭の準備期間を長くとってほしい。
- ○　昼食のメニューを増やしてほしい。

反省としては、私自身の予想通り妥当なものだと思います。生徒自身が自分たちを正しく評価したものと考えます。１年生は、来年こそは今の２年生以上のものを、２年生は、現在の３年生以上のものを目指したいという気持ちで反省を締めくくったのではないかと予想します。そんな気持ちが「喜久田中の伝統」となって引き継がれ、すばらしい翔空祭が毎年実施されるとよいなあと考えております。

さて、今回の劇の発表、どれも本当に素晴らしかったと思います。生徒の成長の度合いに応じたテーマや内容、そして生徒のアドリブや機転の利いた演出等レベルの高いものでした。感心することばかりです。３年生の「シンデレラ」は、現代版となり、予想以上におもしろおかしく表現されていましたし、２年生の「桃太郎」もコミカルで来年度の最終的な開花を予感させるものでした。そして１年生の「ロミオとジュリエット」も小学校から入学して半年とは思えない出来ばえでした。ちなみに、３年生のあの衣装、今年も自前で作った物だったというのは驚きです。（拍手）

文化祭が終わると、残念ながら、３年生にとっては進路指導一色となります。１１月５日［月］からの三者面談等を利用して、生徒一人一人が、自分のめざす進路を本格的に決めなくてはなりません。学校としては、精一杯の助言・指導を与え、その進路実現が確実になされるよう支援して参ります。寒い季節に、堪え忍ぶ。これも日本の風物誌なのですね。

フレー、フレー３年生！